

第11回木更津市立小中学校適正規模等審議会会議録

○開催日時：平成23年1月17日（月）

午後1時30分から午後3時15分まで

○開催場所：木更津市役所6階会議室

○出席者氏名

審議会委員：佐伯康子、内田慎一郎、川名和夫、青柳敬子、石井徳亮、坂井麻貴子、豊田雅之、池田利一、金子邦夫、山口嘉男、加藤淳、石渡宏

教育委員会：初谷教育長、鶴岡教育部長、石井教育部次長、
（教育総務課）宮澤副課長、齊藤副主幹
（事務局 学校教育課）高澤参事、浪久副課長、武田主幹、
安見主査、鶴岡主査

○議題等及び公開非公開の別

議事 (1)最終答申（案）について 公開

○傍聴人の人数 1名

1 開会（佐伯会長）

ただいまから第11回木更津市立小中学校適正規模等審議会を開催します。

2 会長あいさつ

本日は、第11回目の審議会となります。

この審議会も、今回を含めてあと2回となりました。

2年間の集大成として、私たち委員の総意として、納得のいく答申を出したいと思いますので、よろしくお願いします。

3 教育長あいさつ

明けましておめでとうございます。ただいま会長からごあいさつがありましたけれども、今日は11回目の審議会ということで、当初予定したよりも回数を増やして、慎重に審議をしていただけてまいりました。窓の外には富士山が頂上まで見えていまして、富士登山でいうと、今日の会議は8合目9合目あたりということになるかと思います。2年間ご審議いただいた内容について総括して最終の答申というかたちにまとめあげていただくという難事業ですが、よろしくお願いいたします。

4 議 事

佐伯会長 それでは、本日の議題に入ります。

最終答申（案）についてです。さきに事務局から最終答申案をお送りさせていただいておりますので、委員の皆様にはすでにご覧いただいているかと思えます。変更箇所、変更内容は別紙でご連絡のとおりです。中間答申と変更のあったところについては、網かけをしてあります。

今日は全体を見ていきますので、まず2ページの本市における小中学校の規模等の現状から、30ページの、適正配置に向けての学校規模別の方策までで、ご意見ををお願いします。

《異論なし》

佐伯会長 特にありませんでしょうか。それでは30ページからの、適正配置に向けての学校ごとの方策を確認していきたいと思えます。まず、昨年度審議した学校についてですが、今年度審議した学校に関連して内容の変更が必要となったところと、データの更新によって内容の修正が必要となったところがありました。データは22年度に更新して、28年度のデータを追加してあります。これによりまして、結論にまで影響したのが清川中学校です。清川中学校は35ページですが、中郷中学校の統合が関わってききましたので、これについての記述を加えてあります。

《異論なし》

佐伯会長 よろしいですか。それでは今年度審議した学校についての内容を確認していきたいと思えます。学校ごとの方策はとても重要な部分です。今年度審議した学校は13校あります。答申案の記載順ですと岩根中学校区からになりますが、最初に鎌足中学校区を見ていただきたいと思います。鎌足中学校については、中郷中学校との整合性を考えながら28年度までの数字を見てみますと、もう一度踏み込んだほうがよいのではないかと思います。事務局、鎌足中学校のほうが中郷中学校よりも小規模になる見込みですか。

浪久副課長 答申案の21ページに鎌足中学校、22ページに中郷中学校の、22年度から28年度までの生徒数、学級数が記載されています。生徒数をご覧くださいますと、平成22年度は鎌足中が47名、中郷中が49名ですが、各年度を比較すると、平成23年度からは中郷中学校よりも鎌足中学校のほうが生徒数が少なくなります。

佐伯会長 平成23年度からは鎌足中のほうが中郷中よりも小規模になるという見込みで、28年度の数字によれば、中郷中が48名に対して、鎌足中は36名になるということです。中郷中は設備の面でも道路を隔てて運動場があるとか、いろいろと考えて統合という方向を結論としましたが、鎌足中の場合は、設備の面では問題がないこともあって、小規模校ではあるものの当面現状維持としてやむを得ないと結論を出しました。でも、28年度の数字などからみて、この結論でよいのかということをもう一度確認しておいたほうがよいのではないかと思いますので、ご意見を伺いたいと思

ます。

内田委員 確かに数字だけ見ると、28年度には鎌足中学校のほうがいぶ少なくなるようです。ただ、見逃してはいけないのは、中郷中学校の生徒さんは他の学区へ出ていく子たちが多かった、鎌足のほうは逆に入ってくる子が多かったということです。これを加味すると、28年度は10人違う数字にはなっていますが、実際は拮抗する数字になるのではないかと思います。

数字に表れてこないものも我々は審議のときに考慮して、鎌足中学校は現状維持としたと思います。

青柳委員 今のご意見、その通りだと思います。付け加えて、近隣の学校からとても離れているという、地形的な条件もありました。太田中学区にということを考えたりもしましたが、やはり距離の面からみても、独立した小中学校で維持していくのがいいのかなと考えます。

佐伯会長 もし可能性があるとするれば、真舟中学校予定地に移転した木更津第二中学校とのことになりますか。

川名委員 鎌足中のことは、人数からいってどうすべきか考えるところはあると思います。太田中と現在の二中を考えると太田中のほうがずっと近く、二中はかなり距離があります。二中に編入するのはかなり無理がありますが、太田中の可能性はなくはないかなと。ただ、今の学区でいくと太田中は今一杯ですし、太田中は二中との関係で学区の再編も視野に入れるべきとしましたから、鎌足中のことは課題として残しておくのも一つかなという気がします。鎌足地区がこの後どういった人口推移をしていくかというのは何とも言えないと思うのです。このままいくのか、減っていくのか、増えていくのか。二中の移転とからめて、将来的に検討しても良いかなというくらいとしておいたほうが良い気がします。将来的に様子を見て、そういうこともあり得るといふことにしておくのがベストかだと思います。

内田委員 将来どうなるか分からないなかで、例えば請西南はもし道路がきちんと鎌足のほうまで整備できれば、可能かなという感じはします。そう考えると、含みを残すことはあるかなと思います。

青柳委員 私も同意見です。将来的に検討の余地を残しておくことは賛成です。

佐伯会長 それでは、鎌足中学校については、当面現状維持としてやむを得ないと考えますが、今後の生徒数の推移を見ながら、移転後の木更津第二中学校や太田中学校との統合も、将来的には検討すべきであるということを、この審議会の結論としたいと思います。

《委員賛成》

佐伯会長 それでは、次に鎌足小学校のほうにつきまして、お気づきの点はありませんでしょうか。

《異論なし》

佐伯会長 特にないようですので、戻りまして37ページの岩根中学校区及び岩根西中学校区について、岩根小学校、高柳小学校いかがでしょうか。

石渡委員 これでもよいと思います。
山口委員 この表現でよろしいと思います。

《異論なし》

佐伯会長 岩根中学校、岩根西中学校について、どうでしょうか。
石渡委員 審議のときに統合ということではありましたが、岩根西中学校は金田地区にとっても近く、今後人口が増える可能性もあることを考えると、統合を検討すべきと言ってしまうのはどうかと思います。

佐伯会長 岩根中と岩根西中の審議の記録はありますか。

浪久副課長 第7回の審議会におきまして、「岩根西地区においては今後隣の金田地区の都市計画がどのようになってくるかによって、影響がでてくる可能性があるかと考えます。中学校段階については、将来的に一緒になる可能性を秘めているのではないかと思います」というご意見があり、佐伯会長から「岩根中学校と岩根西中学校については、将来にわたっては統合が考えられる」とのまとめをいただいています。

佐伯会長 石渡委員は、検討のときよりも強い口調で書かれているという印象ですか。

石渡委員 統合するべきだという印象は少し課題があるのではないかと思います。鎌足中学校のようなかたちがよいのではないかと考えます。

佐伯会長 将来的には統合を検討するというかたちですね。

青柳委員 賛成です。

佐伯会長 それでは、岩根中学校については、「岩根西中学校の生徒数の推移をみながら、将来的には岩根西中学校を統合することを検討すべきであると考えます」として、岩根西中学校については、「生徒数の推移をみながら、将来的には岩根中学校への統合を検討すべきであると考えます」という記述に修正したいと思います。

この会議の難しさというのは、結論を緩めてしまうと、ただ触れたということにのみなってしまう危険性があり、方策も検討していかなければいけないというところだと思います。

それでは、次に金田中学校区を確認したいと思います。金田小学校についてはいかがでしょうか。

《異論なし》

佐伯会長 では、金田中学校についてはいかがでしょうか。

石渡委員 金田小学校の記述で、いずれはかなり児童数が増加する可能性がありますとしていて、金田中学校にも同じような記述がありますが、「規模、施設、配置等の現状」のところ、将来的な児童生徒数の展望は、小中とも減少傾向と予想されるとなっています。将来的には増えるということを加えたほうがよいのではないかと思います。

金子委員 この表は、7その他に、「児童数は減少傾向にあるものの、現在土地区画整理事業が施行されており、今後人口増加の可能性のある地域である」と入れているので、いいのかなと思います。

- 佐伯会長 そうですね。
- 内田委員 統一見解として、現状と課題の1番から5番までは現状に基づいた分析で、イレギュラーなものを7に記載しているということによいでしょうか。
- 佐伯会長 そうですね。そういう理解でよいと思います。
それでは、次に中郷中学校区の中郷小学校をみていきたいと思います。
いかがでしょうか。
- 《異論なし》
- 佐伯会長 それでは、中郷中学校についてはいかがでしょうか。
- 《異論なし》
- 佐伯会長 それでは、次に富来田中学校区に移りたいと思います。まず、馬來田小学校についてはいかがでしょうか。
- 《異論なし》
- 佐伯会長 次に富岡小学校について確認したいと思います。いかがでしょうか。
- 内田委員 馬來田小学校と富岡小学校の最後の文章が同じになっています。これは、例えば「この統合により旧富岡小学校の児童の通学距離は最長で10キロメートルを越えることが予測され・・・」として、富岡小学校のほうは「統合が妥当であると考えます」までで、最後の記述は要らないのではないかと思うのですが。
- 川名委員 片方を残すとすれば、富岡小学校のほうに残すべきだと思います。富岡小の子どもたちの状況として通学距離が長くなるということなので。
- 石井委員 馬來田小学校の、「スクールバスの活用などを検討すべきである」の前に富岡小学校区への、とつければよいかと思います。
- 坂井委員 富岡小学校の記述をこのまま残して、馬來田小学校については、統合によって通学の安全性に課題が生じるときは、富岡小学校区へのスクールバスの活用を検討すべきとしておいてもいいかと思います。
- 豊田委員 どちらの小学校にも配慮して書いておくというのは良いと思います。
- 石井委員 この答申を読むときに、自分に関係のあるところしか見ないという方もいると思いますので、単独の小学校の文章だけで、独立して成り立つのがよいと思います。
- 池田委員 私もそう思います。馬來田小のほうに、「富岡小学校区の」といった文面を入れればよいと思います。
- 山口委員 小学校の場合、目安は4キロですが、馬來田小学校は最長で7キロの児童がいて、自転車通学をしています。ですから、統合の際のスクールバスの活用には、総合的に見直したうえで、現在の馬來田小学校の児童のことも考えたらよいのではないかと思います。
- 石井委員 「遠距離通学児童のためのスクールバスの活用」としてはどうでしょうか。
- 佐伯会長 いいですね。「遠距離通学児童への」という言葉を「スクールバスの活用などを検討すべき」の前に入れるということで、修正したいと思います。
それから、ここで戻りますが、36ページの東清小学校の記述について、

東清小も富岡小と同じく統廃合と結論を出した学校で、記述内容はほとんど変わらないのですが、東清小には「将来的には」という文言を入れています。「将来的には南清小学校との統合が妥当」としました。富岡小学校には、緊急という意味もあって将来的にはという記述にはなっておりません。東清小学校はこのままでよろしいかどうか、ご検討いただきたいと思います。

金子委員 「将来的には」という言葉が意味しているのは、直近ではなくてかなり先のことというニュアンスでしょうか。

佐伯会長 東清小も26年度くらいには統合の可能性があるということでしたよね。富岡小の場合には22年度に複式学級になるところを何とか解消できたということなので、少しタイムラグはありますか。

高澤参事 答申案の17ページをお開きください。富岡小学校の学級数が米印の7となっています。本年度複式の対象になっておりますが、増置教員を使って複式を解消していますので、各学年1クラスとしています。平成28年度になると二つ複式が出てきますから、かなり厳しくなりますが、27年度までは複式解消でいくだらうと思われま。11ページの東清小学校ですが、平成26年度から複式の対象になる予定です。ただ、同じように増置教員を使えば、数字の出ている28年度までは学年1クラスでいけるであろうということで、そのタイムラグが若干あるということです。

内田委員 東清小学校の審議のときには、平成26年度から複式学級になる可能性があるというところで、多少先ということもあって、将来的にはという甘めな表現を使ったかなと思うのですが、至急やらなければならないところと、数年の余裕があるところとということで、このままでよいかという気はします。

川名委員 私もそう思います。

青柳委員 小さい学校が少ない職員でいろいろなことをこなしていく、学校として運営していくというのは大変な困難を伴っていることが多いし、子どもが少人数で行事をやっていくのはやはり迫力が欠けているというか、子どもは子どものなかから学ぶこともたくさんあるので、スクールバスを使うことによって統合していくほうが色々な点で元気が出るのであれば、それにゆくゆく統合ということであれば、あまり期間をおかないということで、「将来的には」という言葉をとるのはやむを得ないかなと思います。

佐伯会長 この審議会の意図が伝わるようにきちんとした文言で残したいと思います。どちらのほうよろしいでしょうか。

川名委員 例えば「将来的には」を取ると、東清小と富岡小の2校は文言上は同じ扱いになります。しかし一遍には進みませんから、教育委員会が急ぎのほうを選ぶということになる、決定権をそちらへ譲るということになります。一方「将来的には」を残すと、審議会として富岡小を先にやりなさいということになる、ということだと思います。審議会としてどちらにするのか、私は富岡小を先にやってほしいと思いますので、「将来的に」は残したいと

思います。

石渡委員 私も川名委員のご意見でよろしいと思います。

加藤委員 私は一般公募から出ていますので、審議会の性格上、何を求められているのか、どういう役割があるのかということと考えますと、こういう文章は保守的なほうに行きがちだと思うのですが、むしろ大胆な発想だとか、こういう考え方もあるのではないかという提案的なことを踏まえていったほうが良いのではないかと考えます。

勤めた者や卒業した者の学校を残したいという気持ちはあると思いますが、通っている者が果たしてどう考えているのかということも考えなければいけないと思うのです。小規模校は小規模校の役割や意味があるとは思いますが、逆に活動を制限されたり、ダイナミックなことができないということを感じている方もいるのではないかと考えます。

山口委員 東清小学校も富岡小学校も、児童数の推移をみるとそれほど変わらないと思います。そう考えると、東清小の「将来的には」というのは削除して、富岡と同じようにしたほうがよいのではないかと考えます。

佐伯会長 それでは、ある意味斬新な側面をわれわれ審議委員は負っているということも考えて、「将来的には」という文言は外すということによろしいでしょうか。

青柳委員 緊急に統廃合の対策をとっていかどうかについて、私たちはこの審議会の委員としていろいろな要素を挙げて考えていますが、地元の人たちの考えはいろいろあると思います。私たちは私たちの範囲で、言葉を選んで書いていくということですので、この審議会としては、それでよいと思います。

石渡委員 私は、「将来的には」を残したほうがよいのではないかと考えます。

佐伯会長 このままの表現がよいか、「将来的には」を削ったほうがよいか、挙手でお願ひしたいと思います。

《「削る」が多数》

佐伯会長 それでは、「将来的には」という文言を削りたいと思います。

最後に富来田中の記述について、ご意見ありましたらお願いします。

《異論なし》

佐伯会長 はじめにとまとめ、資料編について、ご意見ありましたらお願いします。

《異論なし》

川名委員 戻りますが、東清小と富岡小の「統合が妥当であると考えます」という表現で、私はこれに賛成なのですが、これに比べると41ページの中郷中の「統合を検討すべき」はかなり弱腰の発言に感じます。これでよいのか、どうなのでしょう。

山口委員 児童生徒数の見込みが横ばいと減少で言葉の使い分けをしていると理解しましたが、現実問題として、中郷中は50名を切るわけですから、統合妥当というかたちで進めたほうがよいのではないかと考えます。

佐伯会長 中郷中学校については、「検討すべき」か、「妥当である」か、いかがで

しょうか。事務局、記述の表現を分けた意図についてどうですか。

高澤参事 「検討すべき」という言葉については、検討すべき条件が残っているかどうかだと思います。現時点で検討すべき条件についてはある程度消化できたけれども、統合するときに、人数ですとか、鎌足中のところのように木更津第二中学校の移転が前提ですとか、検討すべきことがあるかどうかとだと思います。

石渡委員 中郷地区は、教育に熱心な地域であって、地域の人口が増えていくような施策もできるということでしたので、中郷中学校については、検討すべきという表現でよいと思います。

池田委員 中郷中学校は、色々な条件がこれから変わってくる可能性があるということで、それを検討するという意味合いで、検討すべきということだと思います。

川名委員 色々な表現にしてしまうと、この答申を読んだ人は、なぜ表現が違うかというところが気になるのではないかと思います。弱腰の答えが多くなってしまふのは良くないですし、審議会ですから決定機関ではないので、私たちの思いとして差があったほうがよいのか。中郷中については統合しないこともありえるという意味を残すのか。

内田委員 中郷中学校は、我々の中で同意を得て、最終的には統廃合したほうがよいのではないかという結論になりました。検討すべきことがあるとすれば、外的要因である市街化調整区域が外れたときなどになるかだと思います。審議会として検討すべきことはしているの、妥当であるという表現がよいかだと思います。

川名委員 先ほどの岩根西中学校は、金田地区の人口推移のことを考えて検討すべきという結論でよいと思いますが、中郷中学校については富岡小学校などと合わせて、統合することが妥当というほうがよいかもしれません。

石井委員 難しいところですが、表現を厳密に合わせなくてもという気もします。

佐伯会長 検討すべきであるという文言はこのまま残すということではいかがでしょうか。

《委員賛成》

青柳委員 これから先の市内の情勢がいろいろと変わっていくことは、私たちが予測しかねるところもありますから、まとめの中にでも、そういったことがこの審議会の話し合いの中で出てきたということを入れたらよいと思います。統廃合に関わる地域は、神経質に見守っているところだと思いますので、会議ではこういうことも考えたというところを書くのが大事だと思います。

佐伯会長 では、まとめの中に入れていきたいと思います。

以上で最終答申案についての審議は終了しました。本日の皆様のご意見を反映させて、答申案を修正しまして、次回審議会の前にお送りしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

5 その他

佐伯会長 次回は最後の審議会となります。私たちの任期は2月末までですので、2月中に開催したいと考えています。できれば委員の皆さん全員のご出席をいただきたいと思いますが、事務局いつ頃を予定していますか。

浪久副課長 2月7日、1時30分を予定させていただいています。

佐伯会長 委員の皆さんご都合はいかがでしょうか。それでは、次回は2月7日、ご出席をよろしく申し上げます。

6 閉会

佐伯会長 今日は本当に、難しい審議をありがとうございました。これをもちまして第11回木更津市立小中学校適正規模等審議会を閉会します。

以 上

上記会議録を証するため下記署名する。

平成23年1月24日

木更津市立小中学校適正規模等審議会会長 《会長署名》